

第1学年 道徳科学習指導案

平成29年10月24日（火）第5校時

- 1 主題名 励まし合い、高め合う友情 内容項目 [B 友情、信頼]
- 2 ねらい 友だちの大切さを理解して心から信頼できる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合う態度をはぐくむ。
- 教材名 「仮入部」（出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいと指導内容について

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。青年前期においては感情の起伏が激しく、ともするとささいなことから感情の行き違いが生じ、せっかくの友だち関係が崩れてしまうこともある。また、いつも一緒にいたり同じ行動をとったりすることで、友達関係を維持し合うといった考えも強く、同調傾向をとったりすることも少なくない。このような時期に、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、これまでの友達との関係を見つめ直し、自他の成長につながるよう指導することが大切である。

指導に当たっては、その場だけの関心や自分にとって都合の良い相手とだけの狭い関係にとどまることなく視点を広げ、「親友」と呼べる、生涯にわたり信頼関係に支えられた友情を育てるためにはどうしたらよいか、真の友情とは何かを深く考えさせたい。そして、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係を築いていこうとする気持ちを育てたい。また、自分自身が相手にとって友達として真にふさわしい存在であることが長く親友でいられることにつながることに気づかせたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校低学年で「友達と仲よくし、助け合うこと」、中学年で「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」、高学年で「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」を学んできている。中学生になり、友達関係も揺らぎはじめ、いろいろ小さなトラブルも生じ、朝の会や帰りの会等で友達の在り方などについて話をし、生徒はその都度、友達との在り方について関心を高めている。

中学生の時期は、自分にとってよき理解者を求め、心の底から打ち明けて話せる友達を得たいと願う気持ちが一層強くなる。生徒の実態を考えると、いつもいっしょにいる友達やいっしょにいて楽しい友達が親友であるという、「友情」について浅い理解にとどまっていたり、いつも相手に同調してしまい自分の言動を左右されてしまったりする友達関係であることも少なくない。また、相手のことを考えて忠告したいと思う場面でも、ついつい友達関係が崩れてしまうのではないかとこのことを恐れて自分の考えを伝えられなかったりすることもありがちである。しかし、どの生徒もみな「友情」は大切だ、本当に「親友」と呼べる友達がほしいと心の底では願っているはずである。そして、親友がほしいと思ってもどうすればそういう関係が築いていけるかわからない生徒も少なくない。こうした時期に、生徒一人一人の疑問や願いに応えることはとても大切なことである。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「雅恵」がバスケット部に入部するか、友達から誘われているソフト部に入部しようか迷ってしまい、親友の「由美」との関係を考えて入部する部を決めようとするが、由美の一言で友情の在り方についての自覚を深めていく様子が描かれている。

この教材を通して、主人公の心の変容をとらえさせながら、励まし合い互いに成長し合える友達関係の在り方を深く考えさせたい。

そのために、本時の話し合いでは、以下の3つの場面を中心に、ねらいに迫りたい。

- ① 親友である由美からの誘いを断わる場面では、自分の希望するソフト部に入部したいと思う裏側で、「由美」との関係を心配する気持ちを理解させ、友達関係が崩れてしまうのではないかと心配す

る主人公の気持ちに十分共感させる。

- ② 入りたいと思っているバスケット部を選ぶか、親友の由美との関係をとるか迷う場面では、主人公の心の葛藤を十分に感じ取らせる。自分ならどうするかにおきかえ、人間理解や自己理解を深めていく。
- ③ 雅恵がソフト部に入ることに反対する由美からの一言で頭をハンマーでたたかれたように感じた場面では、由美の気持ちを掘り下げて考えさせることにより、今までと違った友情観に気づかせ、励まし合い、互いに成長し合える友情の在り方についての理解を深めさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 友達についてのアンケート結果を見る。		・本時の学習への関心を高め、ねらいへの方向付けを図る。
	互いに成長し合うためには、どんな友達関係が大切だろうか。		
展開	2 教材を読んで話し合う。 (1) 由美にソフト部に行こうと誘われ、バスケット部に行くからと断ったとき、雅恵はどんな気持ちだっただろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・由美の寂しそうな表情を見て断ってしまって悪いような気がした。 ・仲の良い友達だから、やっぱり由美と一緒にソフト部へいけばよかったかなと思った。 ・由美との友情が壊れてしまわないだろうか心配になった。 ・本当はバスケット部に行きたいのだけれど、由美の誘いを断ってしまったことがずっと心に引っかかってしまい、何だか気まぐずい感じがした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からの誘いを断り、由美との関係を心配する雅恵の気持ちに共感させる。 ☆バスケット部で頑張りたいと思いつつも由美との関係を心配する雅恵の気持ちに共感させることができたか。
閉	(2) 雅恵は、どうしてバスケット部をやめてソフト部に入部しようか迷っていたのだろうか。このような場合、どう考えたらよいだろうか。	<p>【ソフト部に移ろうと思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも一緒にいる友達が自然と部活動の仲間になってしまったような気がして、由美とあまり話をする機会もなくなってしまったので寂しかったから。 ・バスケット部はクラスで自分一人だけなので、一人ぼっちのような気がしたから。 ・バスケット部に来ている1年生の人数も3人に減ってしまい、自分以外の2人は同じ小学校で仲良くやっているので部活動でも一人ぼっちになってしまいそんな気がしたから。 ・由美とはこれからも一緒にいて友達でいたいから同じソフト部 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が本当にやりたいバスケット部を選ぶか、由美との関係をとるか思い悩む雅恵の葛藤を感じ取らせる。 ☆友達を失いたくないという思いから葛藤する雅恵の気持ちを感じ取ることができたか。 ・自分ならどうするかを選ばせ、その理由や根拠を話し合わせていく。 ・どちらが良いか悪いかといった二項対立的に主張させるのではなく、その根拠を考えさせることで、人間理解を深め

	<p>(3) 由美はどうして雅恵がソフト部に入ることに反対したのだろうか。仲の良い雅恵と同じ部でいつもいっしょにいたくはないのだろうか。</p> <p>3 本時の学習を通して、気づいたことや考えたことをまとめる。</p>	<p>にすれば今まで通りの友達でいられると思ったから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま違う部活になってしまったら由美とも友達ではなくなってしまうような気がして心配だったから。 <p>【バスケット部に残る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校でもやっていたし、キャプテンも務めていたので好きなバスケットを続けたいから。 ・由美とは仲良しだけど、自分のやりたい部で頑張りたいから。 ・自分が移るとバスケット部員がさらに減ってしまうことになるから。 <ul style="list-style-type: none"> ・由美は、部活とは関係なしにこれからも大切な友達でいようと思っていたので、部活が違ってしまったら友達ではなくなってしまうと思った自分に対してちょっと寂しく感じたから。 ・由美も自分と一緒にいたい気持ちは変わりはないのだけれど、いつも一緒にいることだけが友達だとは思っていないから。 ・ただ一緒に部にいるのではなく、本当にやりたいと思っている部で頑張ることがお互いにとって良いと思ったから。 ・単に相手に同調したり、いつも一緒にいたりするだけでなく、相手のことを本当に考えてあげることが大切だと思う。 ・相手のことを考えて意見を言ったり、お互いに成長し合えたりする関係が大切だと思う。 ・お互いが自分にとって本当に必要な友達であるような関係をつくっていくことが大切だと思う。 ・うわべだけの仲良しではなく、お互いに励まし合える友達関係をつくっていくことが大切だと思う。 	<p>ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅恵のことを真に考えて言ってくれた由美の気持ちを知り、友達関係の在り方について考えていく雅恵の気持ちを浮き彫りにしていく。 <p>☆「友情」についての由美の考え方を理解することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返りながら、書く活動を通してじっくりと学習課題について考える。 <p>☆ ねらいとする価値について、自分に重ね合わせながら主体的に自覚することができたか。</p>
<p>終末</p>	<p>4 「友情」に関わる教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説話を聞き、改めて励まし合い、高め合える友情の大切さを確認する。

5 他の教育活動との関連

事前指導	・帰りの会で『私たちの道徳』P61に、「友達とはどんな存在か」を考え、記入させる。
道徳科	・教材名 「吾一と京造」 真の友情を理解し、互いに相手を思いやり、共に向上しようとする心情を養う。
学級活動	・自己理解、他者理解、信頼関係づくりを進めながら、友情を広げ深めていくきっかけとする。
部活動	・より高い目標を目指し、お互いが切磋琢磨していく関係を築いていく。
事後指導	・「友情」に関わる詩を教室に掲示する。

6 評価の観点

〈生徒の学習状況の評価〉

互いに励まし合い、高め合える友情についての理解を深めることができたか。

〈生徒の道徳性に係る成長の様子の評価〉

心から信頼し合える友達関係をつくっていかうとする心情を高めることができたか。

7 板書計画

仮 入 部

場面絵

成長し合える友達関係とは？

- ・相手のことを本当に大切に思う
- ・お互い励まし合える存在

雅恵

私もソフト部に・・・↑

由美

反対！

場面絵

大切な友達とは？

(小学校) ミニバス・キャプテン
バスケット部に入部したい
→いっしょに行かない(誘い)

由美

ソフト部に入部したい

由美の誘いを断る

- ・断ってしまい悪かったかな？
- ・やっぱり由美といっしょに・・・
- ・由美との友情が心配
- ・何だか気まずい

迷い

バスケット部に残る？

- ・中学校でも頑張ってたいたい
- ・バスケットが好きだ

ソフト部に移る？

- ・いつも由美と一緒にいたい
- ・由美と今まで通り友達でいたい
- ・自分だけ一人ぼっちは嫌

